

研究課題: 当院で経験した先天性頸部瘻孔 10 例の検討

1. 研究の目的

感染などを契機に当院を受診する先天性頸部瘻孔の中で、共通した特徴を持つ頸部の皮膚瘻孔にしばしば遭遇します。その多くは胸鎖関節部の皮下数mmで盲端になった瘻孔で、これまでその病態については不明確でした。これらについて近年、鰓弓由来の瘻孔であるという新たな概念が示されました。当院で経験した疾患について、同様の観点から症例検討を行い報告します。

2. 研究の方法

過去のカルテ記載や写真、画像所見、手術所見、病理結果などのデータを調べ、匿名化処理を行ったデータを用いて検討を行います。

3. 研究期間

当院形成外科を 2015 年 10 月～2019 年 10 月の 5 年間で先天性頸部瘻孔の手術を受けた方。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

過去のカルテや写真などのデータ

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

学会あるいは紙面発表する場合は画像内の名前や ID 番号などの個人情報を消去し、顔面においては個人が特定されないよう目隠しなどで匿名化した上で発表します。

6. 研究組織

埼玉県立小児医療センター 形成外科 科長兼副部長 渡辺 あずさ

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんの

で、2020年3月31日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター
医事担当(代表 048-601-2200)